

### 看護用品の解説

- ・膿盆の中敷：膿盆の底の形に新聞紙を切り、何枚も重ねて片側に孔を空けて紐で結び、処置台などにかけておいた。ガーゼ交換の時にそれを膿盆に敷いて使い、汚れたものが膿盆の底にくっつかないようにした。
- ・蛇口ハンドルの当て物：結核病棟で、新聞紙を水道の蛇口が覆える位の大きさに切り、何枚も重ねて片側に孔を空けて紐で結び、手洗い場の近くにかけておいた。汚れた手を洗うときに1枚取り、手で直接蛇口に触れないよう新聞紙で覆ってひねった。その後、新聞紙は捨てた。
- ・折り紙のごみ箱：新聞紙でごみ箱をつくり、いろいろな物につかった。
- ・尿器の蓋：新聞紙を兜のように折りたたんで、尿器の蓋にした。

### 看護用品にまつわるエピソード

結核病棟では痰の量を測定するためにクレゾールを入れた痰壺を使っていた。痰の量が少ない患者は痰をちり紙にとり、折り紙のごみ箱に捨てさせた。折り紙のごみ箱を捨てる時は、箱の側面に折り返していた紙の4か所の角を延ばして寄せ、ひねって中身が見えないようにした。

昔はいろいろ工夫した。現在は、例えば便・尿器を蓋なしでそのまま持ち運ぶなど、あるがままで行っており、工夫がないように思う。看護学校時代の看護技術の教員は厳しく、細かく指導された。(備瀬信子氏他, 2004)

### 解説

古新聞はそのまま棄てることができるので現在でもさまざまな用途で使われている。しかし、語られた内容からは、そのまま使うのではなく、すぐに使える形にしてあらかじめ準備をしていることと、使用后すぐに棄てる物であっても折り紙のごみ箱や尿器の蓋のように文化や遊び心が反映されていることがわかる。それらのひとつひとつは手間のかかることであるが、仕事の隙間の時間や休憩時間に看護婦や看護助手によって行なわれていた。

使用後の膿盆や蛇口のハンドルは消毒や洗い流すことによって汚染を取り除くことができるかもしれない。しかし、汚染物が直接物に触れないようあらかじめ紙を敷いたり紙で覆いをしたり包んだりすることは、使用後の処理を容易にするだけでなく汚染を広げないことにつながる。看護者の行動が感染の媒介にも感染の防止にもなることを考えると、日常のこまごました行動におけるこのような対処は、患者の安全を守る上で重要だと思われる。

(嘉手苺英子, 2004)